

留油脂定量にはこの限界と洗浄効率との関係を考慮する必要がある。単分子膜展開のバット面積は 230cm^2 (23×10) を用いているが、あまり縮小すると壁面の影響をうけ誤差の原因となる。

e その他 温度変化による容積補正、原布のブランク補正等についても検討を行った。

- 1) 都築, 矢部, 立花: 日本化学会第9年会講演(6036)
- 2) 平尾: 日本家政学会第11回総会講演(被)

21. 単分子膜レンズ法による油脂洗浄力の定量法 について

高知大教育	吉川 せつ
文化女子短大	原 美智江
愛知学芸大	平尾 あや
お茶の水大家政	風間 晴
	矢部 章彦

1. 既に都築, 矢部, 立花¹⁾が展開した単分子膜レンズ法による洗浄力試験の方法を詳細に検討し²⁾, 表面反射率による従来の定量法では得られなかった洗浄に関する一そう十分な情報を得るための実験法の確立を目的とした。

2. 3. a) 油脂の種類 牛脂, ステアリン酸, ヤシ油, オレイン酸, ラウリルアルコールを用い, いずれも正規の検度線を得た。

b) 汚染法 油脂の CCl_4 溶液を用い連続汚染する方法と C_6H_6 溶液としピペットで注加する方法がある。経日による洗浄性の変化が著しいので精度高い実験法には注加法がよい。

c) 抽出方法 布上の油脂はマイクロソックスレーで抽出したが抽出ベンゼンが15回以上循環(平均3時間以内)すれば平衡値が得られる。

d) 付着量の限界と実験精度 洗浄試験にかけやすい0.4g程度の木綿原布で精度のよい測定を行うには油脂量2.5mg (0.6% owf)程度がよいが, 抽出液の濃縮を行えば0.2~0.3mg程度までの測定は可能である。洗浄後の残